

IAAA NEWS

IWATE ADVERTISING AGENCIES ASSOCIATION NEWS

発行 岩手県広告業協会

(事務局)〒020-0878

盛岡市肴町4-20 永卯ビル4F(株式会社東広社 内)

TEL.019-623-5411

編集 広報PR委員会

理事長あいさつ



東広社 取締役相模 藤原 博氏

岩手県広告業協会は岩手県の広告業界発展のため、また岩手の経済活動活性化の一助となるため、様々な活動を進めております。会員社・特別賛助会員社・賛助会員社の皆様には、当協会の事業活動に対して格別のご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございます。心より御礼を申し上げます。

岩手県においては、東日本大震災津波から10年以上が経過し、各種インフラ整備や沿岸部と広域をつなぐ三陸沿岸道路の全線開通などによる着実な復旧・復興を実感するとともに、一方で震災を知らない世代も多くなり、広告活動を通じて次世代への教訓の継承も当協会の永続的な役割の一つであると考えます。

また、コロナ禍で大きく変わった働き方やライフスタイルへの適応と持続可能な社会の実現に向けた取り組みについても積極的な推進を図ってまいります。

来年、当協会は設立35周年を迎えます。これまで節目節目で様々なキャンペーンや記念事業を行ってまいりました。この2年ほどは新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、当協会の各種活動も中止や縮小を余儀なくされてきましたが、是非とも来年の35周年に伴う各事業においては、コロナ前同様に、もしくはそれを上回るような意義のある内容で会員各社の皆様をはじめ、岩手県内全体に向け、機運上昇の一助となるような展開を企画し、発信してまいりたいと考えております。

私ども岩手県広告業協会は、どんな時代でも「広告世の中を明るくし、人々の生活を豊かにする。」という信念のもと、広告の力を信じ、皆様と共に取り組んでまいります。より一層のご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

14年ぶり!! 新規会員紹介



ハイ・ジャンクション 代表取締役 佐々木 潤氏

初めまして！株式会社ハイ・ジャンクションの佐々木潤と申します。もしかしたら前の会社に在籍していたころの方が知っている方が多いかもしれません。

平成25年に今の会社を設立させていただいて、今年10年目を迎えたところであります。

「ハイ・ジャンクション」の名前の由来は「ハイレベルな交流・接合」です。人と人との繋がりを高いレベルで保ちながらお仕事し、まじょうというイメージです。造語なので、なんの会社なのかよくわからないといわれますが…。

私は教訓として「素直・誠実・熱心」の3つの言葉と、頼まれた事は「YESかはい！」で受けるようにと心がけております。教訓の3つの言葉は理想でまだまだ達することができませんが、素直に物事をみて、誠実に対応し、熱心に続けることがこの商売には、また人として不可欠だと思っております。

広告業協会様とのかかわりは前の会社で在籍時にピアパーティや新年会に参加させていただいていたこともあり、岩手県内の広告業を引っ張る協会会社様、または特別賛助会員の媒体社様との情報交換など、華やかな会であったため、ものすごく憧れがあった会でした。会社では若手1名だった私を他社様の同期の方々が仲良くして頂き、また媒体社様の先輩には飲み込んで行ってもらい、すごく身になることが多かった会でありました。

入会のお誘いを受けたとき、いつかは岩手県広告業協会に仲間になれるような会社になることが目標だったので、弊社などにはふさわしくないかなとも思いましたが、ご縁でしたので「YESかはい！」の精神で入会させていただきました。感謝致します。

まだまだ小さな会社ですが、今後も精進して参りますのでよろしくお願い致します。

「令和4年度 岩手県広告業協会 社員研修セミナー」 2021年クリエイター・オブ・ザ・イヤー賞 受賞者が講演・鼎談

今年度は、3年ぶりのリアル開催でのセミナーを予定。開催概要は以下の通り。

《開催概要》

- 日程／令和4年11月17日(木) 13:30～15:50
- 会場／プラザおでって3階 おでってホール
- 時間／開会13:30～(開場13:00～)

【第1部】2021年クリエイター・オブ・ザ・イヤー賞受賞者 講演会

- ①『チームと、アイデアと、言葉。～西武・そごうの仕事から～』
13:35～14:20 講師／上島史朗氏
- ②『ツイ廃が企画する広告コミュニケーション』
14:25～15:10 講師／関谷“アネーロ”拓巳氏

【第2部】鼎談 テーマ『地方の広告のミライ』

- 15:20～15:50 登壇者／上島史朗氏・関谷“アネーロ”拓巳氏
進行／江幡平三郎氏(IBC岩手放送アナウンサー)

岩手広告協会・岩手県広告業協会合同のゴルフ大会 IBC開発センター駒井氏が優勝!

岩手県広告協会・岩手県広告業協会合同第31回親睦ゴルフ大会が3年ぶりに開催された。会場は、南部富士カントリークラブ。両協会から合わせて22人が参加。秋晴れの絶好のコンディションの中、和気あいあいと好プレイ、珍プレイが繰り返された。コロナ禍により、前半スコアだけで順位を決めるハーフコンペでの開催。

大会結果は、駒井一郎氏(IBC開発センター代表取締役社長)がグロス40、ネット35・2で優勝。中村淳氏(東北博報堂盛岡支社長)がグロス47、ネット36・2で準優勝、3位は菅野智氏(岩手県広告社代表取締役社長)がグロス51、ネット36・6だった。



就任あいさつ



IBC岩手放送社長
代表取締役 伊藤 卓也氏

私がIBC岩手放送に入社したのは昭和61年です。配属先はテレビ営業部でした。右も左もわからないまま駆け回り回る日々でしたが、初めて広告をいただいた時の喜びは、今も忘れられません。2年目に入って「営業が面白くなってきたな」と思っていた矢先、報道部に異動になりました。内示の時に上司から「2年たった営業に戻してやる」と言われたものですから、そのつもりでいました。ところが、何年経ってもその気配はなく、その後26年間、報道でニュース作りに励むことになりました。それでも1年目に営業で広告の仕事に携わり、そこで社会人としての心構えを覚えていただいたことは、本当にありがたいことだったと思っています。

さて、ここ数年、心がけていることがあります。「一日に1万歩、歩くこと」です。雨が降らなければ片道40分ほど歩いて通勤しています。地味ですが、歩くことが一番、健康に良いと信じています。スマホのアプリによると去年の一日あたりの歩数は1万428歩でした。今年は9540歩にとどまっていますので、ちょっと頑張らなければなりません。ちなみにIBCラジオを聴きながら歩くと、なんだかどこまでも歩けそうな気がしてきました。お試しください。

長引く新型コロナウイルスの影響に加え、放送の環境も変化し、先を見通すことが難しくなっていますが、そうした時代だからこそ、足元をしっかり見つめ、地域の皆様とともに前に進んでいきたいと思っています。よろしくお願いいたします。



アド・プランチ
代表取締役社長 山崎 充氏

本県で新型コロナウイルス感染者が確認されてから、3年目に入った。身近なところでも陽性者が相次ぐようになると、新型コロナウイルスは忌み嫌う存在ではなく、共存する時代に入ったといえる。長期戦となった感染症との闘いで新しい生活様式が浸透する中、それに対して広告はどういうように対応し、地域や県民の暮らしを豊かなものにしていくのか。試行錯誤しながら、小さなチャレンジを積み重ねていきたい。

コロナ禍によって、私たちの日常生活は大きく変わった。職場では取引先や同業他社など外部の方と直接会う機会はめっきり減り、テレワークやデジタル化が急速に進んだ。私は現職に就任するまで親会社で労務・経営企画などの担当役員を務めていたが、県外の会議はオンライン参加が中心で、同業他社の担当者や親しく懇談する機会はほとんど得られなかった。プライベートでも、もともとの出不精に拍車がかかり、買い物はネット通販を利用することが多くなった。「ウイズコロナ」の時代に本格突入し、政府や自治体からの行動制限はなくなりましたが、果ごもりのなライフパターンはあまり変わらない。

新聞折り込み広告を主に扱っている弊社も、コロナ禍で収益が大幅に落ち込んだ。若干の回復傾向はあったものの勢いは弱く、強い危機感を持っている。クライアント側の広告戦略も変化しており、経営戦略の再構築が不可欠となっている。

増収策と経費節減策が車の両輪。やるべきことはいろいろある。リーダーシップが問われる局面だ。まずは率先垂範し、変化の渦を巻き起こしていかなければならないと考えている。



総合広告社社長
代表取締役 藤田 一典氏

昨年12月に総合広告社の代表取締役就任に就任しました。盛岡市とのご縁は、昭和56年の中三百貨店（本社青森市）の盛岡出店に始まります。青森県の出身で、同百貨店に勤務していましたが、川徳移転後の建物を利用して肴町に進出することとなり、それに伴って盛岡に転勤となった次第です。その後、平成11年4月に現在の総合広告社に入社しました。弊社は平成2年、「有益な情報発信を通じて、地域社会の発展に貢献しよう」との創業者で現会長の菅野の思いからスタート。創業から約30年の月日を経て、印刷・出版関連のバブリング事業、企画・提案を中心としたセールスプロモーション事業、TV・ラジオでのCM展開、地元紙での企画展開によるメディアプロモーション事業、スマホ対応ホームページ制作等のWeb事業、さらに中心市街地活性化のための「ハシゴ酒」等のイベント事業など、皆様のおかげで飛躍的に発展を遂げることができました。

今日、新型コロナウイルス感染症拡大により、市民生活はもとより、飲食、観光業などを中心に様々な業界に深刻な影響を及ぼしています。広告業界も大変厳しい状況が続いていますが、県内外から多くの観光客が詰めかけるなか、3年ぶりに開催された盛岡さんさ踊りの勇壮な太鼓の音に心を踊らせたのは、私ばかりではなかったと思います。街に少しづつにぎわいが戻るなか、「ハシゴ酒」等のイベントを再開させ、街を活気付け、中心部活性化のお手伝いができればと考えています。

これからも信頼できる企業として成長を続け、より一層の企業基盤の充実に努め、皆様のお役に立ちたいと思っています。今後ともよろしくお願い申し上げます。



東広社社長
代表取締役 林 徹氏

昨年11月に東広社の代表取締役社長に就任しました。あつという間に1年が経とうとしています。改めましてよろしくお願い申し上げます。

東広社は私が生まれる8年前、昭和35年に設立され、私が8代目のこと。新卒で入社し、この会社、この業界しか知らないまま30年が過ぎてしまいました。当然ながら、ここ数年入社してくる社員は私がこの会社に通い始めた後に生まれたきた若者たちで、最初は些かショックでしたが、今は順調に歳を取ったと自覚しています。入社時は、自分は何も貢献していないのに、ただただ時代の恩恵を受けたバブル最後の世代。バブル崩壊後、その時の年収に追い付くのに短くない年月を要したことを思い出します。

この仕事を今も続けられている大きなエポックとなったのは2011年東日本大震災の時の経験にあります。震災直後は、広告会社というものの存在意義と、ひたすら毎日続くキャンペーン作業に無力さを感じたのを覚えています。被災地でボランティアをすることも尊いことではありますが、自分の本業で何か役に立てないものか？と考えていた時に、震災前にお世話になっていた沿岸の取引先から、今の状況から少しでも前に進むための一つの区切りとして9月に追悼式を行いたいのでその運営を手伝ってほしいという相談をもらいました。当時は泊まる所も、祭壇を作るための花の調達もままならない状態でしたが、これが今自分の本業で役に立てる機会であり、それを相談してくれたことへの感激とただならぬ使命感に駆られたことを今も忘れません。我々の仕事では時々そんな感覚に出会うことがあるので、続けられているのかもしれないと思います。